

作成年月日：2023年4月13日 (Ver.1.0)

聖マリア病院 (病院長：谷口雅彦) では、他施設と共同で実施する下記研究のために、受診時に患者さんから取得された診療情報等を共同研究機関より提供を受けています。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て、個人情報保護法に規定する規律を遵守して実施しています。診療情報等の使用については、研究計画書に従って仮名加工化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】 高齢者肝細胞癌に対する肝切除の妥当性

【共同研究の研究代表機関及び研究代表者 (情報の管理責任者)】

研究代表機関 (研究代表者)：久留米大学医学部外科学講座 菅野 裕樹

診療情報等の提供元：聖マリア病院外科

【研究分担施設・研究責任者】

・聖マリア病院外科 緒方 俊郎

【診療情報の対象者 (研究対象者)】

1) 受診期間：西暦 2006 年 1 月から西暦 2020 年 12 月までの間に受診

2) 受診科： 聖マリア病院 外科

3) 対象疾患名：肝細胞癌と診断され、初めて肝切除術を受けた方

【診療情報等の項目】

診療情報等：【病歴、年齢、性別、身長、体重、既往歴、CT 等の画像データ、手術所見、血液データ、予後データ等】

授受の方法： 郵送・宅配 電子的配信 直接手渡し その他 ()

【研究目的】

医療水準の向上に伴い、全世界的に平均寿命が延長している。その傾向は我が国ではとりわけ顕著であり、手術に限らず高齢者の診療に当たる機会が今後ますます増加すると考えられる。消化器癌の中で肝切除は侵襲が大きいとされるが、併存症や脆弱性を有する割合が多い高齢者に対する肝切除の安全性および腫瘍学的妥当性は不明である。

今回高齢肝細胞癌患者に対する肝切除の安全性および腫瘍学的妥当性の検討を行う。肝細胞癌に対して肝切除が施行された患者を若年者と高齢者に群分けし、患者背景、術後合併症、予後を比較検討する。またサブグループ解析として、特に侵襲が大きいとされる右葉切除や左葉切除などにおいても同様の検討を行う。本研究により高齢者に対する肝切除の安全性および腫瘍学的妥当性が明らかになり、高齢者肝細胞癌の診療の一助になると考えている。

【研究 (利用) 期間】 研究実施許可日から西暦 2028 年 3 月 24 日まで

【利益相反に関する事項】

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません。

【問い合わせ先】

(本学) 研究責任者：久留米大学医学部外科学講座 菅野 裕樹

問い合わせ担当者：聖マリア病院 外科 緒方 俊郎

電話：0942-35-3322 (代表)